日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）
電話｜（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

91.3.13 No. 3365

千葉支社－3月11日「団交?!」

回答書も出さずに手ぶらで

ストライキ怯えるJR総連

業務移管＝津田沼破壊の元凶＝

――革マルの危機――

三月一一日、千葉支社当局は、動労千葉との団交に回答書も提示せず、手ぶらで顔を出すという不誠実極まりない態度に終始した。

この日の団交の内容は、今次ダイ改で切実になっている乗務員の労働条件、仕業の改善と高齢者対策、強制配転者の原職復帰の展望、そして、津田沼の強制配転などどれひとつとっても重要なものであった。（申二一号）

なかでも、「交番の差し替えや便乗時間の変更」なども含めて、誠意ある話し合いを求めたのである。

当局に、運転保安確保や、乗務員の健康管理や、労働条件を少しでも前向きに考えようとする気があるなら、手ぶらで団交に顔を並べ、同じことを繰り返し、その挙げ句、一方的に「時間です」とそそくさと引き上げてしまう態度はとれないはずである。

当局はまともな団交を行なえ

東中野事故を二度と繰り返すな

われわれは、一九八八年、一二・五を忘れることはできない。

東中野事故の原因は、我々の反対を押し切って一二月ダイ改を強行したことによってひきおこされたのだ。目茶苦茶なスピードアップ、「赤信号でも進め」「三〇秒遅れたら処分」という異常な日常的締つけ、労働監獄化が原因になっていることは歴然としているのだ。

「このままでは、第二の東中野事故は不可避」と誰もが思っている。

この現実から目をそらし、あくまでも動労千葉潰しに血眼となり、合理化を推し進めるなら大事故、大参事が又々引き起こされてしまう。

「闘わなかったら殺される」、この現状を打破する為に何度でもストライキに立つことをはっきりと宣言しようでわないか。

九一・三ダイ改の大きな柱（狙い）は動労千葉解体攻撃である。

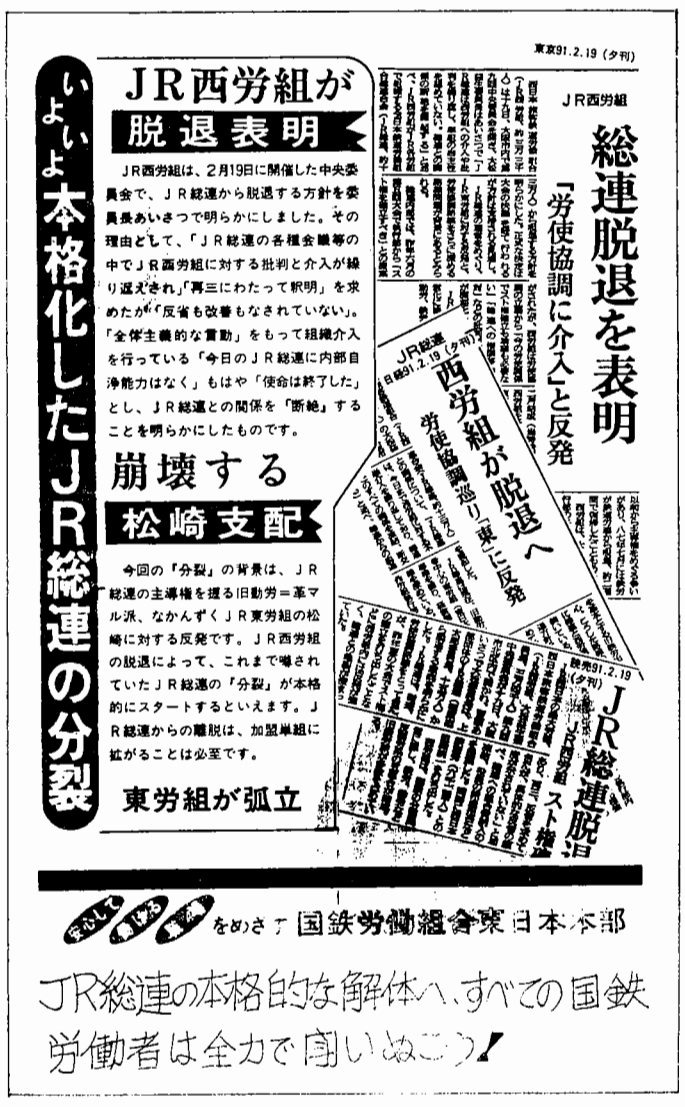
配転者数二九名中二〇名が動労千葉組合員である。ダイ改にからめて、この際一挙に津田沼を解体、一掃しようとするとんでもない攻撃を断じて許さない。

すでに当該の津田沼支部全組合員は猛然と反撃に転じた。

瓦解の淵に立つJR総連――今日の追撃戦

JR総連の分裂と分解は音をたてて始まった。大義も正義も持たず、己の利害と動労千葉、国労憎しのみで野合してきたJR総連は、西鉄労脱退を皮切りに四国、九州、東海に波及することは火をみるより明らかである。

いまや、革マル松崎率いるJR東労組は、追い詰められ錯乱と凶暴化を深めている。松崎いわく「経営者の中に俺が革マルだと言っているヤツがいる。それならそれで結構だ。勝手にしろ」と。

今回の業務移管は、こうした、追い詰められたJRとJR総連どものアガキであり、彼らこそ"守勢"にまわっていることをはっきりと見きわめ、大二波ストの猛追撃をもって、本格的解体、一掃の闘いに突入しよう。

3・15第二波ストライキ貫徹!!総決起集会へ大結集を